

第3弾 新プロジェクト いよいよ始動！

高等部・就業サービス科では、地域・社会・学校との「つながり」を教育資源として生かし、進路指導にとどまらない、生徒主体のキャリア教育への転換を進めています。

「おおむら TUNAG(つなぐ)」「虹プロ」「先生応援プロジェクト」を柱に、生徒が実社会の仕事に関わり、人と協働し、誰かの役に立つ経験を重ねる中で、自ら考え、選び、行動する力を育んでいます。こうした「協働・貢献の学び」を、生徒たちの働く力やウェルビーイング、そして豊かな社会参加へとつなげる実践を積み重ねています。

その一つである、地域とつながり、学びをつなぐ「虹プロジェクト」(通称:虹プロ)では、これまでミライ ON 図書館、新大村駅、農園など、大村市内の地域資源を活用し、「探究学習と専門教科を融合したデュアル・システム型現場実習」を展開してきました。生徒は、本物の仕事の担い手として、考え、判断し、課題を解決しながら、利用者等に貢献する経験を重ねています。教員にとっても、生徒の気付きや探究を深い学びへとつなぐ単元開発につながるなど、実践そのものが新たな学びを生み出しています。

この1年間、「ミライ ON 図書館」での単元開発が進み、実際の雇用にもつながるプロジェクトへと成長してきました。そこで得た生徒の気付きや経験を次の探究へとつなぎ、今回新たなプロジェクトが始動します。

舞台は、大村市内にある「長崎県教育センター」。企画・次世代型研修推進課の皆さまのご協力をいただきながら進める、「虹プロ」第3弾です。実習場所は、主に「玖島の杜図書館」です。

9月8日(火)、就業サービス科2・3年生が実際に教育センターを訪問しました。当日は、所員の方からセンター業務についての講話を受けたのち、館内を視察。実際の仕事を知り、これからの実習へのイメージを膨らませました。

さらに、マスコットキャラクター「クッシー」の活用方法など、生徒自身が担当所員の方々との対話を通してアイデアをよりよいものへと練り上げていく経験をしました。

また、今回の仕事の「ビジョン(目的)」と「ゴール(目標)」についても、みんなで話し合いながら決定。与えられた仕事をこなすだけでなく、「何のためにするのか」「どこを目指すのか」を自分たちで考える学びが始まっています。

次回、10月1日(木)から、いよいよ本格的な短期実習がスタートします。

果たして、生徒たちはどんな仕事をつくり、どんなアイデアを形にしていけるのでしょうか。そして、今回の「つながり」が、どんな新しい学びや可能性を生み出していくのでしょうか。

「虹プロ」第3弾。これから始まる生徒たちの挑戦に、どうぞご期待ください。



やってみよう！ もう一度やってみよう！ 最後までやってみよう！

一歩、二歩、三歩。その先へ

この言葉を大切に、魅力ある虹の原の教育を育んでいきます。～R8年度 学校経営方針の実現に向けて～